

目指す教師像 —「はむらの学校教育」—

① 共に学び続ける教師

- 求め続け、共に学び続ける教師の姿。
これこそが、子どもの心を動かし、子どもを変え、保護者の信頼を呼び、地域社会の共感を誘うと確信します。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究を通して共に学び続けることで、着実に授業力は高まります。同時に、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの推進により、教育課程を軸にした学校教育の改善・充実の好循環が生まれます。



② 師弟同行・率先垂範する教師

- 師弟同行とは、教師が子どもに寄り添い、共に歩むこと。重視する理由は二つあります。一つは、子どものよさを引き出し、伸ばすためです。もう一つは、教師が子どもから学んだことを、教育活動の一層の充実につなげるためです。全ての教育活動の評価は、子どもを介して行われます。指導改善のヒントは、子どもの学ぶ姿や変容の中にあります。
- 子どもが「主体的に学習に取り組む態度」を的確に評価することが求められています。子どもが学ぶ過程で試行錯誤し、自分の学びを調整しようとしている姿を見逃さず、肯定的に評価するとともに的確な助言を行えるよう、授業研究を積むことが必要です。
- 「寝ていて人を起こすな」の言葉どおり、例えば、服装、挨拶、整理整頓などに係る指導は、教師自身の在り様に深く関わります。日々の清掃活動や奉仕活動等の指導に当たっては、共に行動しながら、子ども一人ひとりの労をねぎらいたいものです。

③ 子どものよさや可能性を引き出し伸ばす教師

- 教育とは文字どおり「教えること」。education（教育）の語源はラテン語の educere であり、「引き出す」という意味があります。そのため、子どもの自己成長力を信じ、話をじっくり聞いて考えを引き出し、伸ばすことが重要です。
- 育てる上で大切なことの一つに、相手の意志、主体性が発揮される環境をつくり出すことがあります。誠意をもって子どもの話を聞き、心温まる関わりの中で自信を与え、生き生き、伸び伸びとした活動を導き出すことが必要です。

この一球

野球解説者 野村克也

野球は、終わってみれば「この一球」である。試合をしているときには「この一球」に気づかない。ところが、終わってみると確実に「この一球」が存在するのだ。

「この一球」に真剣に取り組んではじめて、野球の楽しさ、人生の楽しさを得られる。

出典：野村克也著「野村克也の人生論 この一球」（海竜社）

※ 野村氏の野球人生に裏打ちされた人生訓。授業では、「発問」がその一つであると考えます。